

第36回全日本空手道選手権大会「組手団体戦優勝」

女子チームの栄誉祝う

内閣総理大臣杯受賞祝賀会を開催

都空連 二ニュース



多数の関係者が集い女子団体戦優勝を祝った



「さらなる精進を」とエールを送る笹川会長（左）

男子は惜しくも準優勝 「次回アベック優勝」誓う

昨年十二月に全日本空手道選手権大会が開催されたが、今回から組み手の部で男子団体戦が三十二年ぶりに復活し、女子団体戦は初開催となった。この大会において、東京都チームは男子が準優勝、女子は優勝の栄誉に輝いた。これを祝し、一月二十五日に東京都空手道連盟は都内のホテルで女子団体戦の優勝祝賀会を開催した。

式典の途中で、東京都選手団が登壇し、今回の大会を振り返りももらった。まず初めに団長である島野康常務理事が「今回女子が優勝したが、男子もよくがんばってくれた。準優勝とはいえ、決勝は二勝二敗一分けで内容が十九対十七とわずかにポイント差の惜敗であった。実質的には男女ともに優勝したと言ってもいいと思っている。また、関東大会も現在二連覇している。三連覇できれば本物だといわれているので、次回は千葉県で開催なので皆さんの応援をお願いしたい」と述べた。監督の横道正明選手強化委員長は「応援をいただいた皆さんのおかげですばらしい成績を残すことができた。選手たちもベテランを中心に、高校生など若い選手も育ってきた。次回もこのような祝賀会を開催していただけるように強化委員会以下選手一丸でがんばってきたい」と述べた。

続いて女子チーム監督の関口徹副委員長は「今回の優勝は出場した選手だけではなく、強化選手が一丸となって応援してくれた賜物であり、皆で勝ち取ったものだと思う。また、選手たちによい環境を与えていただいた都空連に感謝するとともに、次回は今以上に成績を目指し、女子は二連覇、男子は優勝、また個人選でもよい成績が残せるようがんばっていききたい」とした。

その後、高橋優子選手が「今回の優勝で多くの人からおめでとうと言われるが、この優勝は支えてくださった皆さんと一緒にこの優勝だと思ふ。この1年思うような成績が残せず苦しい思いをしたが、それと信じて使ってくれたことに感謝したい」としたのをはじめ、渡辺由希選手、磯田詩麻選手、廣瀬まり選手がそれぞれ感謝と抱負を述べた。

また、今回惜しくも準優勝だった男子チームの渡邊大輔選手、二瓶竜宇選手、羽柴統一選手、細貝武司選手、清水良介選手も次回への決意を述べた。

式典の最後に閉会の辞として並木知徳常務理事が「今回のような優勝祝賀会が毎年開かれるよう今後の選手の皆さんの活躍に期待したい」と述べ閉会となった。



優勝の喜びを語る女子選手団（左から高橋選手、渡辺選手、磯田選手、廣瀬選手）

子団体戦の優勝祝賀会を開催した。開会にあたり笹川会長が、女子団体戦の初代王者に東京都に輝いたことへの喜びを表すとともに「アスリートというものは、自分を自分で決めるものではないという。自分で限界を決めてしまったとき、その選手は成長しなくなると思った。選手諸君は自分で限界を決めずにさらなる精進をしてほしい」とエールを送った。また、有竹隆佐専務理事も「今回の優勝を団体優勝、将来的にはオリンピックでの活躍へと繋げてほしい」と語った。また、乾杯の音頭をとった栗原茂夫副会長も「団体では最近低迷していたが、今回の女子優勝、男子準優勝で東京都の底力を見せることができた。次回は男女アベック優勝を果たすことを期待している」と述べた。

◆第36回全日本空手道選手権大会
 ■男子組手団体戦▽準優勝■東京都
 ■女子組手団体戦▽優勝■東京都
 ■女子組手個人戦▽第5位■廣瀬まり

第2001号
 平成21年3月31日
 発行 社団法人
 東京都空手道連盟
 〒166-0001
 東京都阿佐谷北
 2-14-4
 阿佐ヶ谷北口ビル2F
 TEL 03 (3223) 9002
 FAX 03 (3223) 9007
 http://www.tokuren.jp/
 編集 都空連ニュース
 編集委員会